



三笠市立博物館は、市内の自然史、歴史、産業史を保存するために、昭和 54 年に設置された、博物館法による指定を受けた総合博物館です。

自然史分野では、約 1 億年前の白亜紀における様々な化石が約 1,000 点展示されており、別名「化石の博物館」と呼ばれています。特にアンモナイト化石は、三笠市を始めとした北海道産を中心に約 600 点 80 種も展示されており、国内最大のコレクションとして知られています。

展示室 1 「白亜紀の世界と化石」

第 3 回日本ジオパーク全国大会（室戸大会），2012 年 11 月

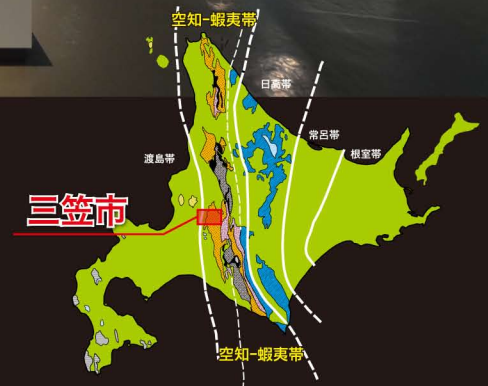
三笠ジオパーク構想エリア内にある博物館活動

Museum activities within the area of the Mikasa Coalfield Geopark Plan

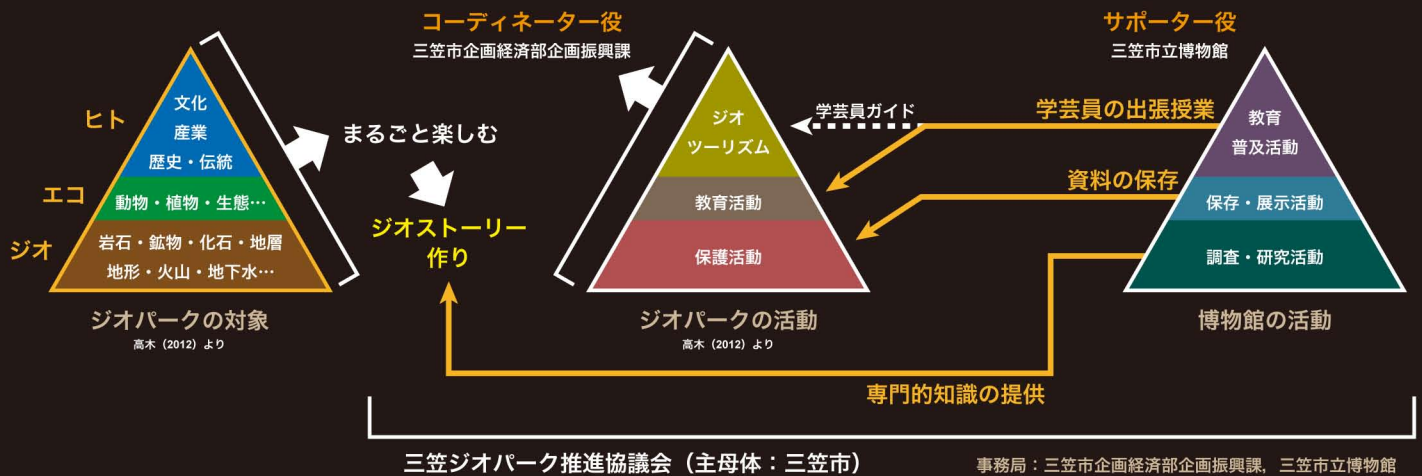
栗原 憲一^{1,2}

1 三笠市立博物館，〒068-2111 北海道三笠市幾春別錦町 1-212-1, (Email) kurihara582@city.mikasa.hokkaido.jp

2 三笠ジオパーク推進協議会事務局，〒068-2192 北海道三笠市幸町 2 番地 三笠市役所企画経済部企画振興課内



三笠ジオパーク構想における三笠市立博物館の活動と役割



三笠市立博物館で行われている普及・教育活動 (一例)



自然観察講座
「アンモナイトの観察」



化石クリーニング体験



体験実習「のぞいてみよう！
アンモナイトの殻の中」



実物の 1 億年前の白亜紀の岩石から、アンモナイト類などの化石を掘り出す体験。

アンモナイトの殻内部を観察できる資料を作り、どのような生物なのかを探る体験実習。



三笠市立博物館には、現在学芸員が 3 名在籍しており、内、2 名は古生物学を専門、もう 1 名は民俗学を専門としています。

博物館では、地域の自然史と郷土史の研究及び資料の保存活動だけでなく、学芸員の専門性を活かした様々な普及・教育活動を積極的に実施しています。